

5

地域の将来計画（「地域の夢プラン」）をつくろう

組織を立ち上げた後、みんなが参加し、組織ぐるみで活動を継続していくためには、何をめざすのかをはっきりとすることが重要です。

このため、「手づくり自治区」において、地域課題を抽出しながら、めざすべき将来像を明らかにすることが重要です。

こうした地域の将来計画を、県中山間地域づくりビジョンでは、「地域の夢プラン」づくりとして位置づけ、その取組を促進しています。

〈1〉「地域の夢プラン」の必要性

■住民主体の活動の端緒に

「手づくり自治区」の目的は、住民主体の取組により、地域をあげて協働活動が活発化し、住みよい地域社会を築いていくことです。

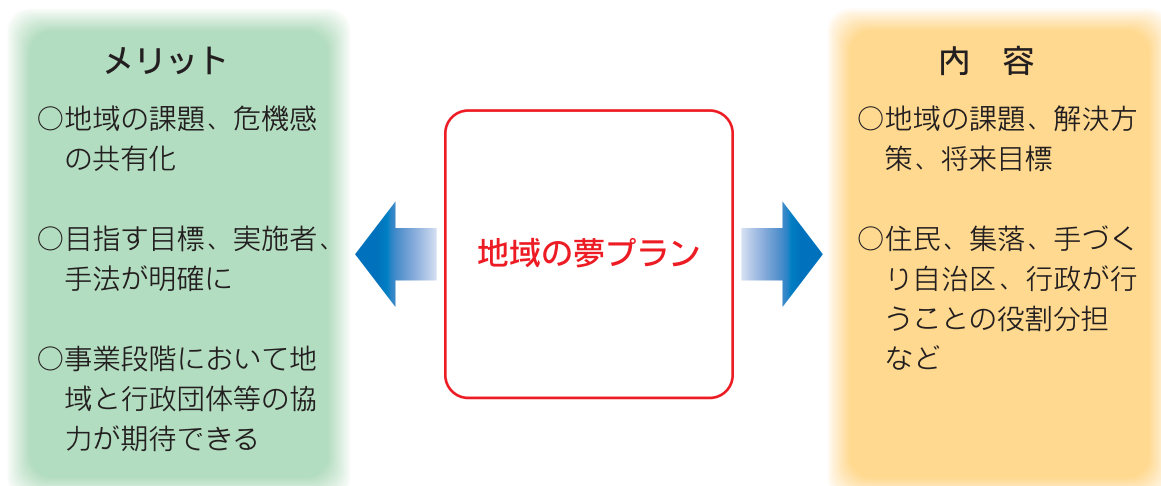
しかしながら、組織を立ち上げたばかりの段階では、このことを正面から住民に働きかけても、住民の理解や参加を得ることは難しい面があります。

このため、新たな組織において、地域が共同して考えて、行動につなげていくための、地域の将来をみんなで語っていくことが端緒となります。

■危機感の共有、行動を起こす第一歩に

地域の中には、「人が減り、高齢化が進み、地域が元気をなくしている。このままではいけない。」と、思っている、どのようにしたら良いか？どこから手をつけたら良いか？1人では動けない？等の思いを持つ人がいるはずで

こうした人たちを中心に、地域の課題を共有化し、行動を起こす第一歩として、地域の夢プランづくりが有効です。



〈2〉地域の魅力と課題を見つけよう

■あらためて地域を見つめる

活動の第一歩は、地域を知ることから始まります。
地域みんなが出来るだけ参加しやすい方法を工夫して、

- 危険箇所のチェック
- 生活上の課題の洗い出し
- 地域の誇りや自慢につながる資源の確認・発見

など、地域の課題や良さを集約してみましょう。

■地域を見つめるための手法

地域に根ざした活動を進めるには、みんなで議論を重ねることです。
このためには、例えば、多くの住民が参加し、楽しめるように工夫しながら実施できる「地域づくりワークショップ」や、「個人アンケート」「グループ別話し合い」等の手法があります。

〈地域づくりワークショップ〉

山口県では、以前から「集落環境点検活動」を実施しています。集落のみんなが、集落地図に課題を書き込んだり、集落を歩きながら、課題を共有化し、良いところを見つけ、集落の将来について話し合い、実践を行う活動です。

「集落環境点検活動」のステップ

ステップ1

・集落の現状はどうなっているのか
歩こう会、点検マップづくり、アンケート等

ステップ2

・みんなで知恵を出し合っ〜話し合おう将来の夢〜
現状のまま推移したら将来はどうなるの？
解決する方法は？ 元気になる取組は？

ステップ3

・「地域の夢プラン」づくり
点検した結果をみんなに知らせながら
男性も女性も高齢者も子供も参加してプランづくり

ジャンプ

・プランの実現に向けて自分たちでやること行政等へ
お願いすることの仕分けや役割分担
実践活動



ワークショップ風景



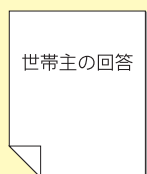
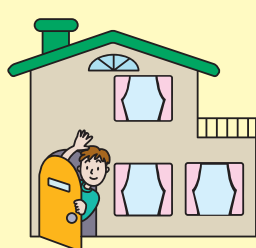
集落点検マップ

この他に、「TN法」や「地区力点検」などがあります。

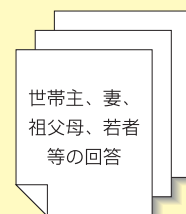
<住民への個人アンケート>

アンケートを「戸」から「個」に

「戸」アンケート（1世帯1票）



「個」アンケート（1戸複数票）



○これまでの方式 = 「戸」を対象としたアンケート（1世帯1票方式）

住民意識の調査は、アンケート方式で実施することが良く行われます。

しかし、これまでのアンケートは1世帯に1調査票が配布され、回収されるものがほとんどでした。この方法では、世帯を代表して回答する世帯員（それは多くの場合、男性世帯主）の意見が、そのまま「地域の声」として集約され、住民全員の意向を把握できないという問題があります。

○これからの方式 = 「個」を対象としたアンケート（1戸複数票方式）

こうした問題を回避するためには、世帯内のすべての世帯員の回答を求める「1戸複数票方式」が有効です。具体的には、1世帯に対して複数の個人票を配布し、さらに世帯共通項目については世帯票を準備するという二重のアンケートとし、世帯員間のプライバシーを確保する工夫（例えば個人用封筒を用意し、それを世帯単位の封筒で回収する）にも配慮し、配布・回収します。

少し、手間はかかりますが、女性・高齢者・若者等を含む住民全員の意見が正しく把握できます。

○アンケート方式を「戸」から「個」にするメリット

- ・「住民自治の時代」は、住民の性別・世代間の意見の調整が必要となる時代でもあり、世帯内（「戸」）の「個」の行動や意見の分布をただしく把握することは、行政にとっても、住民にとっても欠かせないことです。
- ・生活様式の多様化で一同に集まらない住民にとっては、個別アンケートにより意見を聞いてもらえることで、地区の活動に参加しているという一体感が醸成できます。

<グループ別話し合い>

年齢別（20歳代以下、30～50歳代、60歳代以上など）、男女別、集落別にグループによる話し合いをして、意見を引き出します。

〈3〉 アイデアを出し合い、将来の夢を形にしてみよう

■意見やアイデアを自由に出し合いましょう

ワークショップやアンケート、グループ別話し合いによって、住民からたくさんの意見やアイデアが出てくると思います。

これらをまとめ、地域の課題の解決や夢の実現に向けて、どのような活動を「いつ」「誰が」「どのように行うのか」をまとめたものが、「地域の夢プラン」になります。

〈地域を元気にする夢やアイデアは？〉

先発的な活動を行っている「手づくり自治区」においては、以下のような活動が取り組まれています。

○自分たちでできる活動は？

住民の手で企画・運営できる活動としてコミュニティ単位で行われている活動

■楽しみ創造型

- 地域外との交流：棚田オーナー、里山体験 など
- 地域内での交流：盆踊り、新年会、公園整備 など
- イベント：ほたる祭り、さくら祭り など

■課題解決型

- 生活機能：危険箇所の点検、道路・環境整備、葬儀等相互扶助 など
- 産業振興：集落営農、朝市の運営、観光施設の経営 など
- 福祉活動：独居高齢者への声かけ、安否確認、弁当配布 など
- 交通対策：NPO有償福祉輸送 など

○地域の資源を商品に

地域を元気にするためには、経済的活動が欠かせません。

ワークショップなどを通じて、みつけた様々な資源を、「商品」として捉え、活用する活動も「手づくり自治区」の重要な取組です。

■地域資源の商品化の例

- 農林水産加工品の開発
- 郷土料理の商品化
- 伝統工芸品の復活 など



農村レストラン
手打ちそば（下関市）



イノシシ牧場
猪肉販売（萩市）



森の恵みを活かす
草木染めのストール（岩国市）

■アイデアや地域の夢に優先順位をつけましょう

- 皆さんから出された様々なアイデアや地域の夢を、一気に実現することは、なかなか難しいことです。
- このため、それぞれの実現可能性や必要性等を検討し、めざすべき時期を、長期（遠い将来）、中期（近い将来）、短期（すぐ）に区分し、誰が実施するのか（活動主体の決定）、実現のためにはどのような方法や手段を用いるのかについて整理することが必要です。
- こうした検討は、通常は役員会等を中心に行いますが、途中経過は、必ず住民全員に報告し共有するとともに、検討の場には、実現に向けての具体的な連携や支援ができるよう、必要に応じ行政・団体が加わることも必要です。

<段階的な目標設定の例>

- 長期目標（遠い将来 おおむね20年後）
20年間で、地域出身者の夫婦を5組帰そう。
.....
- 中期目標（近い将来 おおむね10年後）
10年間で、農業法人の多角経営（水田＋畜産＋加工・直売）を実現
高齢者が不便を感じない地区に（旧小学校舎利用のグループホーム）
.....
- 短期目標（すぐ おおむね3年後）
ホタル祭りの実施、農産物直売所の開設、休耕田の活用
.....

<地域の夢の交通整理>

地域の夢プランの参考様式は、ワークショップ等で整理された「地域の夢」を「いつ・だれが・どうやって」実現していくのかについて、整理しやすい様式にしていますので、地域でご利用ください。（36P）

（参考様式）

○○地域の夢プラン

○○地域の夢	活動イメージの具体化 整備予定内容、取り組みなど	取組予定時期			活動主体			備考 資金調達法 （関係事業名等）
		すぐ	近い将来	遠い将来	個人ですること	集落等で取り組むこと	落等が連携して取り組むこと	
地域がどんなふうになったらいいか	何を するのか		いつ やるのか			だれがやるのか		どう いう 手段を 使うのか

- 集落点検活動等ワークショップ結果に基づく地域将来像（地図、イメージ図等）を添付する。
- 住民アンケート結果の概要等があれば添付する。

■「地域の夢プラン」をお披露目しましょう

□できあがった「地域の夢プラン」については、組織の総会等において、住民全員にお披露目し、意識を共有化するなど、「みんなのプラン」なるように働きかけましょう。

□また、プランに掲げた目標は絶対的なものではありません。

外部の環境変化や、よりよいアイデアが生じた場合には、柔軟に変更することも重要です。



トピックス

「危機感の共有化」や「地域の将来目標づくり」に役立つ将来人口の予測

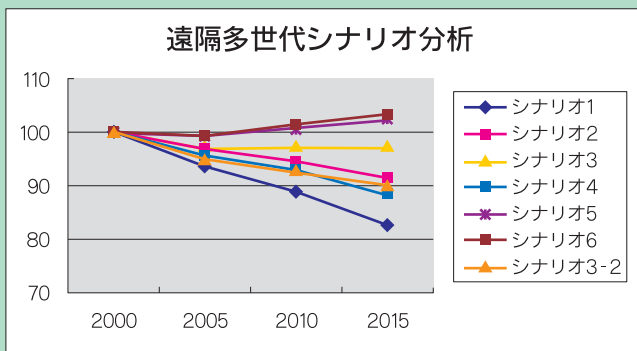
「地域の夢プラン」作成を進める上で、人口の将来予測を行うことが有効です。

多くの場合、人口が単純に減少することが予測されるのですが、どういふふうにしたら下げ止まるのか？といった予測を行い、UJターン者を確保する目標をシミュレートすることも可能です。

■県内中山間地域A地区の人口シミュレーション

1990年、1995年、2000年の国勢調査人口を基に、2015年の人口を予測。

団塊の世代夫婦や30歳代夫婦のUJターンを想定しながら、数パターンのシナリオを想定



☆予測結果

○現状のまま 人口17.1%減少

→シナリオ1

○人口の下げ止まる水準

→シナリオ3

5年間で人口100人当たり

30歳代前半夫婦1組+5歳児1人を

UJターン

分析：山口県農業試験場（2006年）

〈4〉 経済的な基盤づくりも同時に考えよう

■ 安定的な活動費用の確保

- 「手づくり自治区」が活動を続けるためには、その経済的基盤の確立が必要です。資料作成に必要なコピー代や、茶菓代等の日常的な活動に必要な経費等については、その多くが会員からの会費の徴収や市町からの補助などでまかなわれていると考えられます。

- 集落単位の活動であれば、運営経費も少なくても済みますが、ある程度大きな組織となれば、運営のための経費も大きくなることが予想されます。
そのため、経済活動の展開も視野に入れることが必要です。
 - イベントなどの集客事業の実施、直売施設、観光施設の運営
 - 地域資源を活用した商品開発
 - 地域ぐるみのツーリズム活動などが考えられるのではないのでしょうか。

- 最近では、「指定管理者制度」により行政施設の運営を外部に委託することも行われていますので、地区にある公民館等の施設の管理運営を受託するといったことも考えられます。

■ コミュニティ・ビジネス的な視点での活動

- 今後は、地域に住む人たちの困りごとの解決を図り、「暮らし」の質を向上させるとともに、一定の対価を得てサービスを提供する「コミュニティ・ビジネス」の考えに立った活動の展開も考えられます。
具体的な事例としては、
 - 高齢者の外出や買い物代行等を支援する「有償福祉タクシー」の実施
 - 小規模複合福祉施設（グループホームや児童預かり施設の一体的運営）
 - 生活必需品等の販売施設の運営など
 - 農作業の受託や山林管理の受託などなどが挙げられるでしょう。

■ 事業スケジュールや資金計画を作ってみよう

- 地域のみなさんの暮らしを楽しくし、元気な地域社会を創っていくためには、将来にわたって地域づくり活動が持続できる組織づくりを進めていく必要があります。そのためにも、経営的な視点や手法も取り入れながら、組織的に取り組むべき事業計画、事業スケジュールや資金計画などを作ってみることが必要です。

- 組織全体で取り組むことが必要ですが、事業内容によっては、地域内のグループや法人格を有する別組織で行う必要もあるでしょう。